

・関心・能力に応じて主体的に読み取りが進められるように、単元の中でT・Tの授業形態を取り入れ、方法別に教師が援助していく。

### 3. 検証授業の実際と考察

#### (1) 題材名

「長屋王木簡の発見」

#### (2) 本時のねらい

長屋王の公的な活動と私的な生活の様子を読み取り、自分の選んだ方法で要点をまとめる。

#### (3) 学習過程

段	学習活動・内容	時	○教師の援助 ●評価	研究仮説との関連
つかむ	1 本時のめあてをつかむ 長屋王は、どんな暮らしをしていたのだろうか。	5	○ 前時の反省カードや机間巡視により、課題把握の状況や解決方法の見通しをチェックする。 ● 本時のめあてをつかむことができたか。(観察)	◎ 児童が選択する学習方や学習の進め方法を確認する。
	2 読み取りの方法について確認する。		○ 要約文・文図 絵図・ワークシート	
調べる	3 本時の学習範囲を音読する。 4 一人調べをする。	5 15	○ 児童に方法を自由に選択させる。また、下位の児童には絵図を見ながら要約文を書かせるように配慮する。 ○ つまずきの見られる児童に対しては、ヒントカードや援助を行い、主体的な読み取りができるようにさせる。 ● 自分の選択した方法で段落の内容を読み取ることができたか。(机間指導) ○ 重要語句を過不足なく取り入れて、段落をまとめることができたかを確認させる。 ○ 友達と別な方法の良さについても認め合わせる。	◎ 段落をまとめていく方法を児童に選択させる。 ・要約文 ・文図 ・絵図 ・ワークシート  ◎ 方法別に教師が分担し、ヒントカードを与えたり、支援を行ったりして、主体的に読み取らせていく。 T1 文図・絵図 T2 要約文・ワークシート
	5 読み取った内容を検討する。 ・方法別に話し合う。 ・全体で話し合う。			
まとめる	6 学習のまとめをする。 ・内容面・方法面 ・反省カード 7 次時の学習内容を聞く	10	● 自分の考えを持ち、反省カードに記入することができたか。(発表・カード)	

#### (4) 指導の結果

① 児童に段落を読み取る方法を選択させたことにより、児童の学習意欲が高まり、主体的に読み取る姿が見られた。

(● 資料1・2・3)

② T・Tの授業形態により、教師の援助が効率的に行えた。

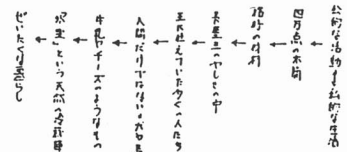
③ 文図を書く学習を通して、言葉を大切

に扱う児童が増えてきた。また、段落の要約文を書ける児童も増えてきた。

#### 資料1 《第4段落要約文》

母約文1  
長屋王の公的な活動と私的な生活の様子を読み取り、自分の選んだ方法で要点をまとめる。

#### 資料2 《第4段落文図》



#### 資料3 《第4段落絵図》



#### (5) 考察

##### ① 事前・事後・把持テストの結果

---事前 ---事後 ---把持

問題の意図	正当率%			有効度指数	把持率	変容のグラフ
	事前	事後	把持			
1. 指示語の内容	60	88	91	71	94	
2. 接続詞の使い方	65	91	88	75	10	
3. 重要語句を見つける	40	86	88	75	97	
4. 段落を要約する	34	77	80	65	96	
5. 小見出しを書く	48	88	88	78	97	
6. 要旨をまとめる	31	77	80	67	96	
7. 文章構成をまとめる	34	77	77	56	10	